資料１５４－３

第 154 回　IEC 活動推進委員会　運営委員会
国際会議報告書

資料	＜ＴＣ４７関係報告書＞国際会議報告書
154-3／TC47 -①	SC47A／WG9「集積回路／ディジタル IC」オースチン会議報告 20051017－20051019
154-3／TC47 -②	TC47／WG2「半導体／半導体環境試験方法」フランクフルト会議報告 20050927-20050928

資料	＜ＴＣ６２関係報告書＞国際会議報告書
154-3／TC62 -①	SC62A／JWG3「医用電子機器共通事項／ソフトウエア」フロリダ会議報告 20051207－20051209

資料	＜ＴＣ８０関係報告書＞国際会議報告書
154-3／TC80 -①	TC80／WG8A「船用航法装置／AIS（船舶自動識別装置）」サラソータ会議報告 20060118－20060120
154-3／TC80 -②	TC80／WG7「船用航法装置／電子海図表示装置」ロンドン会議報告 20060117－20060119
154-3／TC80 -③	TC80／WG6「船用航法装置／デジタルインタフェース」グロトン会議報告 20060131－20060202

資料	＜ＴＣ１０３関係報告書＞国際会議報告書
154-3／TC103①	TC103／WG3「無線通信用送信装置／地上デジタル TV 送信機測定法」パリ会議報告 20060117－20060117

資料	＜ＴＣ９１関係報告書＞国際会議報告書
154-3／TC91①	TC91／PTs「電子実装技術／禁止物質の不使用表示」メサ会議報告 20060110－20060111

（社）電子情報技術産業協会
IEC 活動推進委員会　御中

運営委員会・資料番号：154-3／TC47－①（事務局記入）

様式 4

提出日：2005 年 10 月 31 日

IEC 国際会議出席報告書

TC/SC/TA 担当委員名：中村　篤　　報告書作成者氏名：　齊藤　義行　（会社名）松下電器産業㈱

会議名（半角）	区分	組織番 (TC/SC/TA)	SC47A/WG9 (半角)
SC47A/WG9	☐TC ☐SC ☐TA ☒WG ☐PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	名称 (日本語)	集積回路／ディジタルＩＣ
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	☒単独開催　☐同時開催	

開催期日	2005 年 10 月 17 日 ～ 2005 年 10 月 19 日	
開催場所	（国名）米国	（都市名）オースチン
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	Mart Coenen（オランダ）	幹事国　日本
参加国及び参加人数	5 ヶ国、主な国名 日本、ドイツ、フランス、オランダ、アメリカ　、参加人数（11）	
日本人出席者名（会社名）	[○：補助対象者・・・（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)] ○中村 篤(ﾙﾈｻｽ)、和田修己(京大)、増田 則夫(NEC)、市川浩司(ﾃﾞﾝｿｰ)、○齊藤義行(松下)	

議事概要（背景・目的・成果・問題点など）（この欄は、見かけは 1 行ですが、所定欄に改行しながら最大 28 行まで記入できます。）

1．前回議事録の確認と WG9 関連文書の最新ステータスの確認

前回議事録は特に修正はなく承認された。最新ステータスでは IEC62132-5（WBFC）が IS に移行したことなどが示され、各プロジェクトが順調に進んでいることが確認された。その中でコンビナから GHz 帯を使う無線が増えてきており、さまざまなデバイスをテストするためには RF Imunity 試験に用いる高周波（GHz 級）のノイズソースを議論すべきとの話があった。検討開始にあたっては WG9 で 1GHz 以上を扱うかどうかという点に関して WG 内での合意が必要ということもあり、詳細決定には至らなかったが、今後 GHz 帯に関する対応は必要になってくると思われる。

2．「BCI 法（725/CD）」に対するコメントの確認

JEITA で最も懸念されていた対応周波数の上限に関しては本文中に”Up to 500MHz"という表現を入れることで承認された。また前回の会議で問題になった校正方法に関しては、DUT を 50Ω に置き換え、バイパスコンデンサをサポート回路側に付加して実施することなった。バイパスコンデンサの値に関して１nF では ESL を考慮すると電流ループのインピーダンスを低くできない点を日本より指摘した結果、サポート回路側のインピーダンスを考慮し、５０Ωより大きい場合にパスコンを用い、そのデフォルト値が 1nF であると表現することとなった。500 MHz 以上の測定法に関しては、オランダ委員からの新提案（従来プローブのかわりに小型トランスを使用する方法）を Annex (Info)として追加することとなった。仏委員から今回確認された対応を文書反映後、CDV に移行したいとの意見があり、承認された。

3．「Advanced MP（720/CD）」に対するコメントの確認

事前に現地にて日本メンバーで対応案・ＣＤの改定案を策定したこともあり、非常にスムーズに審議は進行した。最終的に改訂版ＣＤ案の E.6 の Caribration の章に Caribration Factor が基板厚等によって変わること、また基板厚や配線幅と Caribration Factor の関係を示すグラフを掲載することの２点を修正することとなった。日本よりそれらの修正を反映後、CD から CDV に移行したいとの意見を提示し、承認された。

4．「CAN バス（727/CD）」に対するコメントの確認

主に日本からのテクニカルコメントに関する議論を実施。テストボードのガイドラインを示す等の修正を加え、CDV For TS に移行することが承認された。

5．VCCI における Kit Module Program についての議論

VCCI の Kit Module Program に関する長澤氏の資料をもとに VCCI ではモジュール（PC のメモリモジュールや HDD 等）のノイズ測定方法に MP 法を用いることとなったことがコンビナから紹介された。MP 法で十分な測定が可能かどうかについての議論がなされたが、本 WG でのターゲットではないこともあり、具体的な結論には至らなかった。

6．その他

・IEC62132-5（WBFC）における記載ミスを日本より指摘
・次回 2006 年 4 月にワルシャワ／ポーランドで開催予定（次回も WG2,WG9 合同開催）

(TSC-06 新版ｅ様式)

（社）電子情報技術産業協会
IEC 活動推進委員会　御中

運営委員会・資料番号：154-3／TC47－②（事務局記入）

様式 4

（事務局記載）　整理番号：　　(半角)

提出日：　2005 年 10 月 21 日

IEC 国際会議出席報告書

TC/SC/TA 担当委員名：　田中　政樹　　報告書作成者氏名：　若井　伸之　（会社名）株式会社　東芝

会議名（半角）	区分	組織番号 (TC/SC/TA)	TC47/WG2 (半角)
TC47/WG2	☐TC ☐SC ☐TA ☒WG ☐PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	名称 (日本語)	半導体環境試験方法
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	☒単独開催　☐同時開催	
開催期日	2005 年 9 月 27 日 ～ 2005 年 9 月 28 日		
開催場所	（国名）ドイツ	（都市名）フランクフルト	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	英国	幹事国　韓国」	
参加国	5 ヶ国、主な国名 米国、英国、ドイツ、シンガポール、日本		
日本出席者	[○：補助対象者・・・（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)] ○若井伸之(東芝)		

議事概要（背景・目的・成果・問題点など）（この欄は、見かけは1行ですが、所定欄に改行しながら最大28行まで記入できます。）

ドイツ VDE のサポートで WG 会議を開催。半導体信頼性試験方法 IEC60749 の全面改訂に向け、以下の＊項目の審議、規格案の対策等を行った。参加者は 5 カ国／6 名（米国 2 名、他国各 1 名、内 1 名はシンガポールセントラルオフィスからの参加）。

1) ESD（静電破壊）試験関係：

TC101 とスコープを区分けする事により進めている規格化の状況を確認。HBM(人体モデル)と MM(マシンモデル)の CDV 投票時のコメントに対しては、Editorial なコメントのみ反映させていく。Technicla/General な内容に関しては、TC101 と共通化させた内容を主体とするため、基本的には内容を変えるものは受け入れずに FDIS 化を進めて行くことに。CDM については元々 FI-CDM 方式と DirectContact 方式の選択が出来る内容としていたが、内容を合わせた形で進められるように US と日本間で内容を調整しながら進めていくこととした。

2) 超音波探傷試験：

05 年 12 月に CDV が Close するのでの、その後コメントを配布対応する。

3) 吸湿&はんだ耐熱性に弱い SMD と防湿包装の取り扱い：

JEITA の半田耐熱条件に対応した内容と鉛フリー条件を考慮した内容で CDV を作成準備する。特に吸湿条件(MSL)の内容の点で調整をしていく事から進めていく。

4) 半導体を実装したプリント基板の落下試験方法：

CDV 文書が 05 年 9 月 30 日 Close するので、そのごコメント配布対応。

5) ソフトエラー試験：

CDV 文書案を作成中。α線・システム試験に加えて中性子線照射試験も追加し、語句定義等を変更した内容で US が CDV 文書案として作成し、その内容が日本として合意できるものであれば、CDV 文書して Circulate する事とした。

6) モールド樹脂の吸湿パラメータ抽出試験：

06 年 1 月に CDV 文書が Close、その後コメント配布対応する。

7)TC91 との JointMeeting：

9/27 にはＴＣ９１との JointMeeting も開催され、TC47 と TC91 との間ではスコープを明確に区分けする事で、それぞれ TC にて現在進めている文書を継続させていく事の全体方針は了解された。具体的には、半田耐熱性・鉛フリー(ラベル)、ウィスカー、ボードレベル落下試験等について、今後も JointMeeting を通じて内容的に整合を取りながら規格化作業を進めていく事とした。TC47 では、歪みゲージを使用した JEITA で作成を進めている落下試験規格の内容を説明した。

次回開催：2006 年 5 月 17～19 日　於ドイツ／ベルリン（TC91 と合同）

[注]：1. 該当者は、出席会議終了後[6週間以内]に TC/SC/TA 担当委員経由で、IEC 活動推進委員会事務局宛ご提出下さい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「IEC 活動推進委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

IEC 活動推進委員会事務局：(社)電子情報技術産業協会　標準化センター
〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 3-11（三井住友海上別館ビル）

(TSC-06 新版様式)

（社）電子情報技術産業協会
IEC 活動推進委員会　御中

運営委員会・資料番号：154-3／TC62-①（事務局記入）

様式 4

提出日: 2005 年 12 月 13 日

IEC 国際会議出席報告書

TC/SC/TA 担当委員名：萩原敏彦　報告書作成者氏名：　中里俊章　（会社名）㈱東芝

会議名（半角）	区分	組織番 (TC/SC/TA)	TC62 / SC62A (半角)
JWG3	☐TC ☐SC ☐TA ☒WG ☐PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	名称 (日本語)	医用電気機器/共通事項ソフトウェア
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	☒単独開催 ☐同時開催	
開催期日	2005 年 12 月 7 日 ～ 2005 年 12 月 9 日		
開催場所	（国名）米国	（都市名）フロリダ　サニベル	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	JWG3：Sherman Eagles	幹事国　U.S.	
参加国及び参加人数	7 ヶ国、主な国名 米国、英国、独国、仏国、イタリア、日本、 参加人数（14）		
日本人出席者名（会社名）	[○：補助対象者･･･（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)] 三浦重孝(GE 横河メディカルシステム)、○中里俊章 ㈱東芝		

議事概要（背景･目的･成果･問題点など）（この欄は、見かけは 1 行ですが、所定欄に改行しながら最大 28 行まで記入できます。）

[背景・目的]　JWG1/JWG3 による“ Medical Device Software Risk Management guidance の策定 ”および” ネットワークに接続された医療機器・システムの安全性に関する新ワークアイテムの必要性 ”を審議する会議と、JWG3 による” IEC62304 を実施するためのガイダンス策定 ”を審議する IEC 62A/ISO TC210 合同国際会議である。

[議事・結果]

1．ソフトウェアの比重増により複雑さを増す医療機器におけるリスクマネジメントについて、“ ISO 14971 を software にどのように適用するか（IEC 62304 との関係をどう示すか）”に的を絞り、” Medical Device Software Risk Management guidance"策定を"NWIP"として提案する準備が始められることとなった。FDA　Murray 氏をリーダとする JWG1/JWG3 各々3 名ずつの ad hoc group により作業開始されることが決まった。

事前に配布された AAMI TIR320412 は参照文書として扱われる。

2．昨今のネットワークにより統合された医療機器･システムのサイバーセキュリティ、個人情報保護の重要性から、独国提案の規格化が支持され、"NWIP"として提案されることが決まった。　”コネクティビティ ”、” リスクマネジメント ”、” セキュリティ ”に関する要求事項を規程することを目的としている。

上記 2 件は、4 月にパリで開催される ISO TC/210 会議において、"NWIP"として提案される。

3．使用者をソフトウェア関係者だけでなく、監査者を含め広範囲に捕らえて、”IEC 62304 を実施するうえでのガイダンス策定 ”を"NWIP"として提案する準備を、議長である Sherman 氏を含め 6 名の ad hoc group で進めることが決まった。（数ページのガイダンスが想定されている。）

4．2005/11 開催の GHTF SC 会議報告の中で、医療機器 software に関する GHTF ad hoc group 設立に関する報告があり、医療機器・システムにおけるソフトウェア開発のほぼ全領域を網羅する規制目的の要求事項検討が開始されるようだ。IEC 62304 と異なりソフトウェア専門家不在での検討が想定され、動向を確実につかむ必要がある。

［今後］

IEC 62304 は、2006/1/24 に仏語訳を含め FDIS 作業完了し、2006/1/27 より投票に入る。

2006/4/24-28　ISO TC/210 パリ会議は非常に重要な意味を持つため参加する必要がある。

[注]：1. 該当者は、出席会議終了後［6週間以内］に TC/SC/TA 担当委員経由で、IEC 活動推進委員会事務局宛ご提出下さい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「IEC 活動推進委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

IEC 活動推進委員会事務局：(社)電子情報技術産業協会　標準化センター
〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 3-11（三井住友海上別館ビル）　Tel：03-3518-6435　Fax：03-3295-8727

(TSC-06 新版ｅ様式)

（社）電子情報技術産業協会
IEC 活動推進委員会　御中

運営委員会・資料番号：154-3／TC80-①　（事務局記入）

様式 4

提出日：2006 年 1 月 30 日

IEC 国際会議出席報告書

TC/SC/TA 担当委員名：TC80　報告書作成者氏名：　矢内　崇雅　（会社名）沖電気工業（株）

会議名（半角）	区分	組織番 (TC/SC/TA)	TC80 (半角)
TC80　WG8A	☐TC ☐SC ☐TA ☒WG ☐PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	名称 (日本語)	AIS（船舶自動識別装置）
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	☒単独開催　☐同時開催	
開催期日	2006 年 1 月 18 日 ～ 2006 年 1 月 20 日		
開催場所	（国名）米国	（都市名）サラソータ	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	Alan Stewart	幹事国　スコットランド	
参加国及び参加人数	7 ヶ国、主な国名 日本、スコットランド、米国、ドイツ、英国、オーストリア、スウェーデン、参加人数（12）		
日本人出席者名（会社名）	[○：補助対象者･･･（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)] ○古山賢二(日本無線、○矢内 崇雅(沖電気工業)		

議事概要（背景･目的･成果･問題点など）（この欄は、見かけは 1 行ですが、所定欄に改行しながら最大 28 行まで記入できます。）

.1　背景

2001 年 12 月に IS された IEC61993-2 クラス A AIS の IMO SOLAS 条約にて規定された船舶（国際航海等）への搭載が 2004 年 7 月 1 日に完了したことを受けて、これまでの運用状況、稼動状況から本クラス A AIS に関する機能・性能要件への向上・変更要求が多く寄せられ、IMO の場でも議論がされてきている。

2. 目的

IEC 事務局としてはこのような背景と IS 発行から 5 年目に入ることから本 IEC61993-2 のメンテナンスが必要との先の TC80 総会の結論を受けてメンテナンス項目の確認を行うことと、今後のスケジュール化を立案する。

3. 成果・問題点

3．1　IEC　TC80 事務局の意向としては 2006 年 11 月には FDIS を Closing したいとのことから、2006 年 4 月の CDV 回章を目指した作業を WG8A メンテナンスチーム議長に課したため、本会議参加者はこの線に沿っての作業を行うことで会議を推進した。

3．2　2001 年 12 月に発行された IEC61993-2 Ed.1 への提案された変更項目は 64 項目にのぼりその内容は、①Ed.1 での不明確な定義の規定、②外部とのインタフェースセンテンス内容の向上、③基本的機能・性能要件の変更、例：送信電力(Low)の 2W→1W、④機能の削除、例：DSC Polling Ack、ロングレンジ IF、⑤テスト項目の追加等、装置及びシステム全体に亘った内容となっていたために作業時間の効率的性を考慮して、システム関連と無線系とに提案項目を分類し、区分された項目に対してサブグループに分けて検討とその対策作業を実施した。

3．3　Ed1 から Ed.2 への変更項目とその内容が明確に理解できる様に Annex として Cross　Reference を用意することとし、その一部ドラフトを作成した。

3．4　本変更内容項目は IEC としての意見であり、IMO、ITU-R 等の関連団体との整合性が取れていない項目が見受けられるため、それら団体との調整が必要であることと変更内容を考慮した新たな IEC61993-2　Ed.2 ドラフトの作成に時間が必要との意見から、IEC 事務局が意図している期限での IEC61993-2　Ed.2 の発行が時間的に困難であるとの見通しから、第 3 回の会議予定も設定した。

4. 今後の会合予定

第 2 回　2006 年 4 月 10 日～4 月 13 日　ドイツ　ハンブルグ
第 3 回　2006 年 6 月 5 日～6 月 9 日　　フランス　サンジェルマン又はスウェーデン　ストックホルム

[注]：1. 該当者は、出席会議終了後[6週間以内]に TC/SC/TA 担当委員経由で、IEC 活動推進委員会事務局宛ご提出下さい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「IEC 活動推進委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

IEC 活動推進委員会事務局：(社)電子情報技術産業協会　標準化センター
〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 3-11（三井住友海上別館ビル）　Tel：03-3518-6435　Fax：03-3295-8727

(TSC-06 新版ｅ様式)

（社）電子情報技術産業協会
IEC 活動推進委員会　御中

運営委員会・資料番号：154-3／TC80-②　（事務局記入）

様式 4

提出日：2006 年 1 月 30 日

IEC 国際会議出席報告書

TC/SC/TA 担当委員名：矢内　崇雅　報告書作成者氏名：　田北　順二　（会社名）日本無線（株）

会議名（半角）	区分	組織番 (TC/SC/TA)	TC80 WG7 (半角)
TC80 WG7	☐ TC ☐ SC ☐ TA ☒ WG ☐ PT ☐ その他		
	☐ TC ☐ SC ☐ TA ☐ WG ☐ PT ☐ その他	名称 (日本語)	電子海図表示装置(ECS)
	☐ TC ☐ SC ☐ TA ☐ WG ☐ PT ☐ その他		
	☐ TC ☐ SC ☐ TA ☐ WG ☐ PT ☐ その他	☒単独開催 ☐同時開催	

開催期日	2006 年 1 月 17 日 ～ 2006 年 1 月 19 日	
開催場所	（国名）米国	（都市名）ロンドン
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	Joe Ryan	幹事国　米国
参加国及び参加人数	7 ヶ国、主な国名 英国、米国、独、仏、ロシア、ノルウェー、日本、参加人数（18）	
日本人出席者名（会社名）	[○：補助対象者・・・（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)] ○：田北 順二	

議事概要（背景・目的・成果・問題点など）（この欄は、見かけは 1 行ですが、所定欄に改行しながら最大 28 行まで記入できます。）

1．背景

非 SOLAS 船用の電子海図装置(ECS)に関する規格 IEC 62376 作成委員会である。

2．目的

現在 TC80 では、WG13 が担当している航海関連情報表示の規格 IEC 62288 に関連して、WG1 扱いの IEC 62388, WG7 扱いの IEC 62376 の規格が今年前半の CDV 完了を目標に活動しているが、それぞれの規格での表示に関する項目の試験方法と要求試験結果の整合性を保つ必要があるため、WG7, WG1, WG13 の合同での調整会議として開催された。

3．成果

1）WG13, WG1, WG7 間で、航海情報表示に関する、試験方法、要求試験結果についての基本方針の見直しが行われ、合意に達した。IEC 62288(Navigational Presentation), IEC 62388(Radar), IEC 62376(ECS)の規格が、WG13, WG1, WG7 間で新たに合意された次の方針で規格が制定されることになった。

a) 試験方法と要求結果(Compliance)は、特別な事情がある場合は、複数の規格で規定してもよい。
b) IEC 62288、または他の装置規格がマスター(Master)規格となる。
c) マスター(Master)規格のみが、試験方法と要求結果(Compliance)の改訂ができる。
d) 試験方法と要求結果(Compliance)に他の規格を用いる場合、他の規格により " Verify "（立証）することとし、その中での試験方法を用いて、" Confirm "（確証）することが要求される。

2）IEC 62376(ECS)については、規格内に IEC 62288(Navigational Presentation)内の参照する Clause を明確にするために、参照するテーブルが作成され、試験方法と要求試験結果は、IEC 62288 に記載されることになった。

3）IEC 62376(ECS)規格は、IEC 62288(Navigational presentation)の規格や IEC 62388(Radar)の CDV 完了を待ち、両規格の内容を確認、整合性を確保したうえで、今年 6 月末 CDV を発行することになった。

4．次回会議予定

2006 年 5 月、米国・RTCM 総会と同時開催

[注]：1. 該当者は、出席会議終了後［6 週間以内］に TC/SC/TA 担当委員経由で、IEC 活動推進委員会事務局宛ご提出下さい。
2. 本報告書は、同一会議に 2 名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後 1 週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「IEC 活動推進委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

IEC 活動推進委員会事務局：(社)電子情報技術産業協会　標準化センター
〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 3-11（三井住友海上別館ビル）　Tel：03-3518-6435　Fax：03-3295-8727

(TSC-06 新版ｅ様式)

（社）電子情報技術産業協会
IEC 活動推進委員会　御中

運営委員会・資料番号：154-3／TC80-③　（事務局記入）

様式 4

提出日：2006 年 2 月 3 日

IEC 国際会議出席報告書

TC/SC/TA 担当委員名：矢内　崇雅　報告書作成者氏名：　田北　順二　（会社名）日本無線（株）

会議名（半角）	区分	組織番 (TC/SC/TA)	TC80 WG6 (半角)
TC80 WG6	□TC □SC □TA ☒WG □PT □その他		
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他	名称 (日本語)	デジタルインタフェース
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他		
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他	☒単独開催 □同時開催	
開催期日	2006 年 1 月 31 日 ～ 2006 年 2 月 2 日		
開催場所	（国名）米国	（都市名）Groton	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	Stefan Steier	幹事国　英国	
参加国及び参加人数	5 ヶ国、主な国名 英国、米国、スウェーデン、カナダ、日本、参加人数（7）		
日本人出席者名（会社名）	[○：補助対象者・・・（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)] ○：田北 順二		

議事概要（背景・目的・成果・問題点など）（この欄は、見かけは1行ですが、所定欄に改行しながら最大28 行まで記入できます。）

1．背景
船舶搭載機器のデジタルインタフェースに関する規格作成委員会である。

2．目的
舶用機器間のデジタルインタフェースを検討、審議する。昨年１１月にロンドンで開催された WG6 会議で、新しいインタフェース規格である IEC 61162-3 のドラフトの最終案が NMEA（NATIONAL MARINE ELECTRONICS ASSOCIATION）により提案され、今回の会議では、この案の審議を重点的に行う。また IEC 61162-1 の Ed3 への改訂版の内容審議を行う。

3．成果
1）2005/12/23 に CDV として発行されている IEC 61162-1 Ed3 のドラフト(CDV)は、PAS100(AIS 関係), PAS101（NMEA の改訂対応），PAS102（VDR 用センテンス）の内容を現在の IEC 61162-1 Ed2 に追加したのみである。WG6 では、本 CDV に追加すべき新センテンス THS(True Heading and Status)や NAVTEX 用のセンテンスの追加をすることになった。追加の方法については、メンバーが National committee のコメントとして提案することになった。（どの国からコメントするかは未定、メールにて協議する。）
2）IEC 61162-2 については、特に審議事項なし。
3）IEC 61162-3 については、最終 CDV 案の説明が Mr. Luft よりあり、２月末には、CDV が IEC TC80 事務局に送付されることになった。（3 月には、CDV として各国に回章される予定）
4）IEC 61162-4 は、IEC 61162-402 FDIS の投票が完了し、コメントの審議が完了している。
5） アラームの取り扱いについてのインタフェースプロトコルについては、IMO ISN/IBS コレスポンデンスG等から「関係する IMO INS/IBS や ECDIS コレスポンデンスGと協議しながら審議を進めるべき」との要望があり、これらのグループと連絡を取りながら審議を進めることになった。従って、今回、IEC 61162-1 Ed3 へ盛り込むことは不可能となった。また、TTM に代わる追尾／AIS 目標用のセンテンス TTD についても審議を行い、今回の修正案を WG1（レーダ）に提案することになった。
6）次回の WG6 会議は　当初の予定の６月に、スウェーデンのストックホルム(SEK)で開催。

[注]：1. 該当者は、出席会議終了後[6週間以内]に TC/SC/TA 担当委員経由で、IEC 活動推進委員会事務局宛ご提出下さい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「IEC 活動推進委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

IEC 活動推進委員会事務局：(社)電子情報技術産業協会　標準化センター
〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 3-11（三井住友海上別館ビル）　Tel：03-3518-6435　Fax：03-3295-8727

(TSC-06 新版ｅ様式)

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：154-3／TC103-①

様　式　5

ＩＥＣ活動推進委員会　御中

整理番号 103-01

2006/01/26 年 1 月 26 日

ＩＥＣ国際会議報告書

ＴＣ／ＳＣ担当委員名：高橋　泰雄　報告書作成者名：高橋　泰雄（会社名）（株）東芝

会議名	組織の番号	TC103/WG3		
	名称（日本語）	無線通信用送信装置専門委員会地上デジタルTV送信機測定法WG		
開催期日	2006年1月17日			
開催場所	（国名）	フランス	（都市名）	パリ
~~チェアマン~~／コンベナ	Claude Bernard（フランス）		幹事国	フランス
参加国	３ヵ国／主たる国名；日、仏、独、			（計5名）
日本出席者（○印補助対象者）	○高橋　泰雄（東芝） １名			

議事概要（背景・目的・成果・問題点など）【ワープロ用紙】

１．概要

11 月の TC103 全体会合において、103/53a/CDV（地上デジタル TV 放送送信機の測定方法）に回付時のコメントが十分に反映されていなかったことから、CDV の修正審議を行なうための WG が開催された。

２．103/53a/CDV 案の修正審議

今回の WG では、英国からのコメント（主にエディトリアルな指摘）とドイツからの変更提案（欧州 DVB-T の測定方法を主体とした提案）について CDV の修正審議を行なった。

基本的には CDV 原案の構成・記載内容を崩さず、一部の項目についてはドイツ提案を ANNEX の形で取り入れることで合意した。

なお、修正に関する日本の主張はほぼ受け入れられ、日本としては問題ない内容に修正された。

３．今後の予定

修正部分の案をドイツが作成、日本およびフランスが内容を確認。CDV の修正を行なう。CDV 修正完了は 3 月の予定。

４．その他新課題等

地上デジタル放送送信ネットワーク測定方法について、PAS の形で secretary に提出、NP として投票にかけることになった。Working document は 3 月までに日本から提出することになった。

注：
1. 本該当者は、国際会議終了後６週間以内にＴＣ／ＳＣ担当委員を経由して事務局宛ご提出下さい。
2. 本報告書は、同一会議へ２名以上出席の場合、出席者協議の上、代表者が提出して下さい。
3. ＴＣ，ＳＣ，WGが同時開催の場合、WGの会議内容は関連ＴＣ，ＳＣに含めた報告書を提出してください。
4. 報告書の追加、訂正は、運営委員会開催後１週間以内に行い、事務局へ提出して下さい。

（社）電子情報技術産業協会
IEC 活動推進委員会　御中

運営委員会・資料番号：　154-3／TC91-①　（事務局記入）　様式 4

提出日：2006 年 2 月 6 日

IEC 国際会議出席報告書

TC/SC/TA 担当委員名：西山 和夫　報告書作成者氏名：　大島　寛　（会社名）ニチコン（株）

会議名（半角）	区分	組織番 (TC/SC/TA)	TC91Marking and Labeling PT (半角)
TC91 Meeting of Marking for Non-use of resticted Substances	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☒PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	名称 (日本語)	電子実装技術/禁止物質の不使用表示Pj
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	☒単独開催 ☐同時開催	
開催期日	2006 年 1 月 10 日 ～ 2006 年 1 月 11 日		
開催場所	（国名）アメリカ	（都市名）メサ	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	D. Bergman	幹事国　日本	
参加国及び参加人数	3 ヶ国、主な国名 米国、ドイツ、日本、参加人数（10）		
日本人出席者名（会社名）	[○：補助対象者･･･（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)] ○ 潮（ﾊﾟﾅｿﾆｯｸ ED），○大島（ニチコン），荒金（ソニー）		

議事概要（背景･目的･成果･問題点など）（この欄は、見かけは1行ですが、所定欄に改行しながら最大28 行まで記入できます。）

1.背景
日本から新規提案した”材料・部品・実装済み基板の特定の化学物質の含有非含有表示（91/531/NP）”が承認されたのを受けて、TC91 フランクフルト会議での合意に基ずき、主に米国との意見調整を行なう会議が開催された。

2. 目的
日本提案の内容が，TC91 フランクフルト会議で了承された国際アンケートのまとめ Statement に沿うものであることを説明する。また，米国からの助言を受け CD 文書作成の参考とする。

3.成果
・91/531/NP と米国が採用を主張している J-STD 609（ドラフト段階）との表示の目的，対象，表示内容などの差異が明確となった。
・91/531/NP が審議のベースとなる文書であることが再確認され，米国からの助言が得られた。

4. 問題点など
・NP 提案の目的は規制に対する Compliance であり，変化が予想される除外項目及び規制対象への対応をどのようにするか。
・はんだ組成表示については IEC/ISO を基本にすべきであり，規格体系での整備事項と考える。

[注]：1. 該当者は、出席会議終了後［6週間以内］に TC/SC/TA 担当委員経由で、IEC 活動推進委員会事務局宛ご提出下さい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「IEC 活動推進委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

IEC 活動推進委員会事務局：(社)電子情報技術産業協会　標準化センター
〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 3-11（三井住友海上別館ビル）　Tel：03-3518-6435　Fax：03-3295-8727

(TSC-06 新版ｅ様式)